

第5回 常滑市立図書館基本構想策定委員会 議事要旨

日時：令和7年12月9日（火）
14時30分～17時00分
場所：常滑市役所1階 会議室F

1 開 会

2 議 事

(1) 第3章 常滑市における課題の整理について

- ・意見なし

(2) 第5章 基本方針について

- ・事務局より 資料2 に基づき、基本方針について説明

(豊田雄二郎 委員)

- ・これからの地域の課題を考えると、空家問題や人口減少など課題が山積みしている。これらを解決しようという考えに立ったときに、行政だけでも、民間企業だけでも難しく、鍵になってくるのは、市民一人ひとりが立ち上がることだと考えている。
- ・公共図書館（以下「図書館」という。）が果たすべき役割の中で、どんな貢献ができるのかと考えたとき、市民活動を始めようとしたときに、それをサポートする役割だと考える。
- ・市民活動を始めようとしても、どこから始めてよいかわからない。図書館で調べ物をしているところに、図書館側が、例えば「こんな補助金や交付金の制度がある」などサポートしていくことも、役割として求められているのではないか。
- ・現在の方針の中に、そういった要素が読み取れない訳ではないが、仲間を作りたい、市民活動を始めたいなど「何かを始めたい」、そんな視点から、もう一つ方針があっても良いのではないか。
- ・こういった方針は、4つというのはあまり良くなく、奇数が良い。5つ目の方針があっても良い。

(井村美里 委員)

- ・ほかの図書館と同じような内容だけにならないように、常滑らしさ

- や、常滑ならではのプログラムや試みが、入れられると良いなと思う。
- ・「人」というのが非常に大切だと考えている。図書館に関わる人材を育てることや、図書館市民ワークショップ（以下「ワークショップ」という。）をやってきた中で、図書館ファンが非常に増えたと思うので、そういった方と一緒に何かする、そういったことが方針の一つとして入れられると良い。
 - ・具体的には、図書館を運営する人や司書をはじめとする専門性を持った人、図書館に関わりたい人たち、また個人だけではなく、企業や資料館、場所を借りるような場合であれば商業施設など、図書館に関わる人たちと何かができるとうい。

方針3 こどもの「読みたい」を育てる図書館

（土方宗広 副委員長）

- ・いつもワークショップの最終レポートの「何にどれだけ力を入れるのか」の星の数にこだわってしまうのだが、これがみなさんの総意だと思っている。
- ・「快適な読書・居場所空間」が第1位だったのだが、これは方針2に記載されている。居心地の良い場所・お気に入りの場所には、学習室・学習スペースも入っていると考えると、これはワークショップでは第4位だった「学習室など勉強できる場所の充実」にもあたる。
- ・第2位だった「資料の充実」は方針1において触れられている。
- ・第3位の「ICTなどの設備の整備」は方針4にある。取組目標の2つ目の「多様な読書のかたちに対応したサービス」というのは、朝早くから夜遅くまで開いていて、その人の生活スタイルにあった利用ができることではないかと考えるので、ICTに加えて開館時間についても今後考えていくと良いと思う。

（土方宗広 副委員長）

- ・方針3については、これを実行するには、学校司書が間違いなく必要となる。学校図書館に関して、司書教諭に期待することは何もなく、そんな仕事をやる時間はほとんどないため、学校司書の方が必ず配置されることを前提とした方針であるなら良いと思う。
- ・取組目標の3つ目の「学校側が公共図書館を頼りにしたいと思える関係性」とあるが、具体的に何があるのか、事務局または他の委員から教えていただきたい。ネット環境が整備されており、子供たち全員がタブレットを持っているこれからの時代に、公共図書館（以下「図書館」という。）に求めるものは何もないと思う。

(事務局)

- ・色々なことが考えられると思うが、例えば学校側にも本の購入の予算がついていると思う。子供たちはどんな本が好きなのか、どんな本を学校図書館に揃えたらよいのかなどで悩んだ時に、図書館にアドバイスをもらうことなどもあると思う。

(土方宗広 副委員長)

- ・人気がある本を探すならインターネットで調べられるし、新聞などにも新刊の案内はあるので、必要ない。
- ・もう一つ加えると、「子供たちにとって身近な存在である学校図書館を行きたい場所にする手助けをする」、これも良く分からない。そういったことにお金をかけるよりは、もっと他のことを充実させた方が、ワークショップのみなさんの思いに込えられるのではないか。実際に、方針3の内容に関する事は、市民ワークショップでは第9位か第10位くらいで、ほとんど期待されていなかった。

(平野小月 委員)

- ・小学校の読み聞かせのボランティアグループを行っている。
- ・過去に、学校図書館の本の破損が多くみられたことなどもあり、図書館の方から、本の修理の仕方を教えることもできると提案いただいたことがある。保護者から学校へ寄附のあった本をボランティアで預かっていたこともあり、本のフィルム貼りなどを教えていただいた。
- ・現在は人数も減り、ボランティアでやるのが難しい現状ではあるが、そういったことも、頼りにできるのではないか。

(山際史子 委員)

- ・本の修理や除籍、蔵書構成を考えるにあたって、学校から図書館を頼りにしていただくということは実際にある。図書館が学校へ足を運んでとなると、ブックトークといったもののイメージした。
- ・先ほどタブレットで調べれば良いのではという話題が出たが、たしかにそういった意見もある。一方、諸外国において、タブレットの導入が先に進んで、それに追いついて揃えていければという流れできたが、現在は、むしろタブレットばかりでは良くないのではという意見が出るなど、やり戻しがあり、タブレットがあれば全部問題が解決するのではない。

(豊田雄二郎 委員)

- ・ここで書かれているのは、第3章の常滑市における課題の整理の69ページの中の「公共図書館による支援」という部分を分かりやすくまとめて書いただけであると思う。その中で触れられているように、実際に市内の小・中学校に対する学校図書館に関する調査で、図書館に対して支援を求める声があがっている中で、先生の負担を増やすより、むしろ負担を減らすために、何ができるかという視点で書かれ

ていると思う。現在、学校司書が配置されておらず、予算上の問題もあるとは思うが、配置を検討する必要がある。言い換えると、学校図書館を支援するという図書館の位置付けを書いているのだと思うが、それでも疑問を感じられるか。

(土方宗広 副委員長)

- ・何かもっと大きなものがあるという思いで見ると、よく分からなかっただけで、そういう位置付けで書かれているのであれば問題はない。

(事務局)

- ・基本方針のため、意図が分かり辛く申し訳ないが、豊田委員のご発言にあった意図で書いている。具体的には基本計画を作る中で、学校の先生の負担を減らすために、図書館として、例えばこんなことができるなど計画していくつもりであった。

(中井孝幸 委員)

- ・図書館と学校図書館とで連携した方がよいことは山のようにある。
- ・学校図書館には何千冊しか本がないが、例えば、入口に、色んな本があるだけでも、その先にもっといろんな世界が広がっていることを知ってもらえるきっかけになる。
- ・先生が子供たちに読ませたいと思う本が学校図書館にはなくても図書館にはあるということもある。図書館にたくさん本があれば、先生たちが「知りたいな」「調べたいな」と思ったときに、図書館を利用することができる。全国には、学校の先生が教育について勉強する場所が、図書館の中にある所もある。
- ・学校図書館に関することが、方針の中に書かれていることは、すごく良いと思う。公立の図書館だから学校図書館は関係ないということではなく、図書館、学校図書館、園文庫などが一体となって、子供たちのサポートをしていくという姿勢が必要だと思う。
- ・ワークショップなどでも、たくさんの意見があったと思うが、アンケートの回答では、自分が受けていたり、知っていたりすることでないと、なかなか意見としては上がってこない。しかし、計画を作る側としては、要求が上がってこなかったからといって、考えなくても良い訳ではなく、課題となる、必要となるだろうと推測して計画する必要がある。
- ・基本方針では、学校図書館だけのことを書いているわけではなく、常滑市の方針として、一緒に連携して、サービスを行っていくことを位置付けている。こういった基本構想は、他にはあまり見ないので、もう少し踏み込んでいただけると、とても良いものになるなと個人的には思っている。

(中井明子 委員)

- ・色々なものを調べるにあたって、その手段の話題が出たが、例えば国語の教科書では、図書館の利用の仕方や調べ方が書いてある。
- ・子供たちにとって身近な存在である図書館と書いていただいているが、年齢が上がるほど、その距離が離れてしまう。近くに楽しい場所が、しかも校内にあるということも、もう一度気づいてくれるといいなと思う。ただ学校側だけでは難しいので、学校司書の配置があり、子供たちへの直接の働きかけができるのであれば非常にありがたい。

(久田博司 委員)

- ・学校図書館との連携については、ワークショップの最終レポートでは、星を6個つけた。選書についても、学校司書の配置が前提ということも書いている。ただ、そのことだけではなく、図書館の今後というものを考えたときに、単純に本を貸し出すというだけのスペースでは限界があると感じたためである。
- ・連携力というものが非常に重要だと考えており、豊田委員が冒頭で言われた、市民が何かを企画するサポート役も連携であるし、学校とのやり取りも連携である。新しい価値やイノベーションを生み出すにあたって、図書館がまず中心になってサポートをしてほしい。
- ・公になっている情報というのは、本でなくても、インターネットでも集められるが、地域に根ざした情報や資料は、インターネット上では見つからないことも十分考えられるので、そういった点も含めた、サポートできる場所となってくれることを市民として期待している。

(山田朝夫 委員長)

- ・事務局は、基本構想を最終的にまとめる際や、今後、基本計画を作成する際には、これ以上、先生の負担を増やす趣旨ではないことがわかるような表現をするように。

(山田朝夫 委員長)

- ・土方副委員長が発言されたタブレットの件について確認だが、タブレットがあれば、子供はそれで調べた以上に知りたいことはないといった趣旨か。

(土方宗広 副委員長)

- ・そうではなく、学校にも確認しなくては行けないが、例えば、調べ学習をしに学校図書館に行くクラスがあったとして、行っても求める本がない。それが分かっているので、行っても仕方がないと思ってしまう。図書の実質は絶対に必要だと思う。
- ・子供たちに一人1台、タブレットがあるので、やはり一番頼ってしまうのはタブレットであり、それは間違いない。本当は出てきたもの

が正しいかの検証をしなければならないが、学校図書館に行ってもその本がない。それが問題であると考えている。

- ・学校の先生も学校図書館に行き調べてみようという活動が、昔に比べると、ほとんどなくなっている。むしろ、取り出し指導や教室に入れない児童の学習スペースになるなど、そういった図書館の活用の仕方もあり、ただ本を読むだけのスペースではなくなっている。

(中井孝幸 委員)

- ・「調べる」ということの学び方ではないかと思う。例えば「シーラカンス」をタブレットで調べたとき、4、5人の児童がいたら、全員が同じものを見ているとは限らない。そんな名前設計会社もあるし、古代の魚のシーラカンス、色んな「シーラカンス」が出てくる。
- ・調べて、見て終わりではなくて、例えば友達と図書館にいれば、自分が借りた本を、一緒に共有することもあるだろうし、違う子が見ていた違う本を見て、「そんなことが書いてあるんだ。」ということもある。多面的なことをその場で共有して、「何だかまだまだ周りにいっぱいあるぞ」と思わせる。そこまで学ばせるということがこれからは必要だと思う。
- ・大学でレポートの課題などを出すとAIを使って出してくる学生もいるが、言葉が同じだから、見た瞬間にすぐ分かる。下手でも良いから、自分の言葉で書いてある方が絶対に良い。みんなが同じ答えを書いてくるようなレポートの出題は、それは我々が悪い。もっと違う学ばせ方をさせたいと思って、レポートのあり方を工夫している。
- ・友達と図書館に行き、そこで色んなことを共有することが必要だと考えている。「知る」ということと「理解する」ということは違うことで、情報の提供元を確認することも当然必要だが、ものの見方に差があることを知ることも大事なことだと思っている。

(中井孝幸 委員)

- ・学校図書館の空間の話題が出たが、中学生だと、7割位はグループで来て話しているだけである。もちろん本について話している生徒もいるが、そうでない生徒もいる。しかし、そういう場所として図書館を使ってくれれば、それで十分ではないかと思う。15分か20分の短い時間でしかないが、彼らがそこで過ごしている時間というのがとても大切である。

(豊田雄二郎 委員)

- ・先ほどの議論になるが、必ずしも図書館においてある本が正しく、インターネット上にある情報が間違っているということではない。昔も今も新聞でも間違ったことが書いてあることがある。

- ・何が正しいのかを自分の力で判断する能力を養成することが大事なのであり、そういう力を育むためにも、図書館が近くにある、幼い時から図書館で調べることで、リテラシーが高まるのではないか。

(山際史子 委員)

- ・先ほど、土方副委員長が発言された、「資料がない」という課題は、学校司書を配置してしまえば、済んでしまうことかもしれない。
- ・本当に資料がないのか、あるいは見つけられないのかもしれない。先生方が見つけるのに手間や時間を割けないのかもしれない。そういう時に、「こんな本がある」「次の授業でこういう本が使える」「こういった部分は、学校図書館では足りないので、図書館から取り寄せる」、それができるのが学校司書だと思う。
- ・方針の中には、学校司書を置くとは書かれていないので、どうなるかは分からないが、そのような形で学校図書館を使うことも可能だと思う。学校図書館に資料がないと言われてしまうのは少し悲しい。学校図書館にある資料をどう生かしていくのかが、学校司書の役割だと思っている。
- ・教室に入れない児童が、学校図書館を使っていると先ほど言われたが、もちろん、そういう使い方も大切である。学校図書館に常時人がいれば、自由に使えるし、安心してその時間を任せられるのではないか。

(山田朝夫 委員長)

- ・例えば、あるクラスで調べ学習がある時に、その担任の先生が、直接「こういう資料が図書館にないか」と問い合わせると、図書館が持ってきてくれるようなことはできるのか。あるいはそれは、学校司書がいないと難しいことなのか。

(山際史子 委員)

- ・先日も「こんな授業をやるので、動物のしっぽについて書かれた本はないか」といった問い合わせがあり、団体貸出で対応した。
- ・しかし、学校と公共図書館が離れているので、どういう流れでそういう問題が出てきているのかが公共図書館側では分からない。先生から問い合わせのあった資料はもちろん出せる。しかし、きっと学校ではもっとたくさんの方が起こっていて、もっと色々な資料を出せると思っている。

(土方宗広 副委員長)

- ・山際委員の発言はごもっともだと思う。何時間かの授業の学習の流れの中で、子供たちが「これを知るとよい」、「これについて分かるとよい」という文脈が分かった上で、はじめて選定できるような状況なのだと思う。

- ・電話で図書館に問い合わせるだけでは難しい場合もあるが、もし学校図書館に学校司書がいて、先生とこんな単元の授業をやるという会話ができれば、もっと本を紹介できる機会があるのだと思う。そういう意味でも、学校司書と図書の充実は必要である。

(中井孝幸 委員)

- ・豊田委員から出た、地域の課題解決だが、色んな活動をサポートすることを、ぜひ図書館で行ってほしい。文部科学省や日本図書館協会も提言している。これまで子供に焦点を当てた話をしてきたが、大人についてはどうなのかも考えてほしい。ビジネス支援をはじめとするような課題解決の窓口にもなってほしいと思う。
- ・図書館の一番のメリットは、無料で借りることができて、そこで色んな活動ができることだと思っている。
- ・先日、滋賀県の図書館へ行ってきたが、地区のグループが図書館に集まって、手芸をやっていた。そういった活動をしているのが見えると、グループの活動が大きくなっていく。元は手芸の繋がりだったのが、それが今や、潰れかけていく図書館を守る会という集まりの母体となっている。ボランティア活動といったものも、もちろん大切だが、そういった日常の活動が図書館で行えて、それが外から見えるというのがとても大切なことだと思う。
- ・岡山県の瀬戸内市民図書館に行った際には、図書館で認知症カフェをやっていた。主催されていた方に、どうして図書館でやっているのか尋ねたところ、「色んな人が来てくれるから見てもらえるんだ」、「知ってもらえるのが一番いいんだ」という回答が返ってきた。誰が来ても良くて、時間制限がないというのが図書館の一番の魅力だとすると、色んな人たちが色んなことができるのが良いのだと思う。
- ・ゆくゆくはフューチャーセンターのように、街のことを考える市民がそこに集まって、色んな議論をしてくれるような場所になるのが理想だが、いきなりはハードルが高いと思うので、みんながやりたいことができる位から始めるのが良いと思う。今は子供だけに焦点が当たっているので、ぜひ大人のことも考えていただきたい。

(井村美里 委員)

- ・基本方針ではなく、基本計画で話すことかもしれないが、ワークショップの中で観光客についての話題が出ていたので、図書館の利用者としてターゲットを誰にするのか、観光客も対象にするのかという話題を委員の皆さんに振らせていただいた。
- ・図書館で本を借りるという話ではなく、来館する人として、観光客

を対象にするのかどうかは、基本構想を作る上での前提になると思うが、委員の皆さんのご意見はどうか。

(豊田雄二郎 委員)

- ・「常滑市を知りたい」にも繋がってくると思うが、例えば初めて常滑市で暮らそうとしている人にとっても、観光客にとっても、図書館に行けば常滑市のことが分かるという視点から考えれば、同じことではないか。
- ・あるいは移住してきて、どうやって生活していけば良いかわからない時、もちろん市役所もパンフレットなどは出すが、もっと詳しく知りたいとなったら、図書館に行く。そんな役割もあるのではないか。

(久田博司 委員)

- ・どちらかというところから狙って作るようなイメージではなく、良いもの、常滑らしいものを作った結果、例えばインターネット上で話題となったり、有名になって、何かのついでに寄ってくれることに繋がるのだと思う。
- ・図書館市民ワークショップの最終レポートでは、「シンボリックで立派な建物」とあったので、皆さんが付ける星の数が少なかったが、ワークショップの中では、外観やイメージなどに、常滑らしさやシンボリックなものを求める声がとても多かったと感じている。図書館に対するプライドを感じたので、出来上がった結果、たくさんの方が来てくれると良いなと思っている。

(中井孝幸 委員)

- ・ターゲットを、観光客に、市内の人に、ということではないと思っている。実際に新しい図書館ができると、2割位は市外からの来館者で、図書館があまり充実していない地域に作ると、それが半分近くになる。市民だけでなく、隣の市で地元で図書館がある人でも、新しくできたから行ってみようとなる。まずは、市内に向けてしっかりとした図書館サービスを行っていけば、それが広がって、市外からも来てくれることになる。
- ・常滑市として、図書館が観光とタイアップしていくのであれば、それを基本方針に謳えば良いと思う。沖縄県の恩納村は、観光が産業の中心なので、観光情報を図書館が持っている、データを収集して、情報発信まで行っている。ただ常滑市は、別の産業をもっているため、観光に頼らなくても、図書館については、プラスアルファ程度で良いのではないか。

(井村美里 委員)

- ・自分も観光客に向けて立派な図書館を作るべきだという意見を持っているわけではない。ハードとして、全国から見に行きたいと思う立派な図書館を作るのは、少し常滑市の求めるイメージではないのではと思う。

- ・自分は、専門が建築だが、ハードは結局、一瞬、一時的だと思っていて、綺麗な図書館を作っても、ある時期は人気があって、みんなが見に行くが、その波が終わったら、来なくなってしまふ。ハードではなく、むしろ長く愛されるとか、長く来てもらうために、何が必要かという所が、重要なのではないかと思っている。
- ・皆さんのお話を聞くと、観光に積極的ではないが、常滑市に実は良い図書館があるから来てね、というスタンスだと感じたので、例えば、常滑市に関する地域の資料がたくさんあるとか、常滑市ならではのプログラムがあるとか、他にはないサービスを行っているとか、そういったことで、すごいな、常滑市らしいなと感じることが何かできると良いなと改めて思った。

(中井孝幸 委員)

- ・井村委員の発言のとおりで、建築の耐用年数が60年から80年と言われる中で、その80年間は愛着をもって皆さんに使っていただけることが、一番大事なことだと思う。
- ・瀬戸市の事業に関わっているが、小学校5校、中学校2校を統廃合して、にじの丘学園という小中一貫校を作った。そこが人気になって、人口が増え、統廃合したはずが、校舎が足りなくなって増築しているという不思議な現象が起こっている。教育の環境が良いということで、若い人が瀬戸市に住みたいと選ばれているのが理由である。
- ・施設を作ってもすぐに結果は出ないかもしれないが、教育や子育てがしやすい、そういったことがだんだんと分かってくると、だいぶ先の話になるかもしれないが、移り住んでくれる人も出てくる。

(赤尾恵子 委員)

- ・少し話が戻ってしまうが、自分の中では、学校図書館と図書館の結びつきがなかったので、一緒に何かできるんだ、その先があるんだという考えを初めて知った。
- ・一方で、学校図書館を知っている子供がみんな、図書館を知っているかという、家庭の環境であったり、親の好みであったりで、図書館に足を運ぶとは限らないと思う。学校の行事やイベントなど何かのきっかけで、図書館を身近に感じる機会があっても良いと思う。
- ・必ずしも本に興味を持たなくても、図書館に行ったときに、「中にあった彫刻がすごかったな」とか、「木漏れ日が綺麗だったな」とか、そんな些細なことでも、子供の心に残れば、大人になった時に思い出したり、図書館で「ちょっといい気持ちだったな」と愛着を持ってもらえるのではないかと思う。
- ・新しい図書館になった時に、みんなで図書館カードを作ってみるとか、図書館を整備するときに、自分が一緒に関わったとか、そういったことを経験すると、この先長く愛着を持ってもらえるのだと思う。

(土方宗広 副委員長)

- ・今のこども図書室ができた時に、先生が引率して、見学に行っ、図書カードを作って帰ってきた。その後、どれくらいの子供たちが利用しているかは定かではないが、新しくできたから行ってみようというのは確かにあると思う。給食センターの建替えの時もそうで、ほとんどの小学校が見学に行っ、話を聞いて、給食に対する関心がとても高まった。

(豊田雄二郎 委員)

- ・それは、教育委員会として、アナウンスしたのか、先生が自主的に引率していったのか。

(土方宗広 副委員長)

- ・どちらもある。良かったらどうぞという程度のアナウンスはしているが、強制したわけではない。

(事務局)

- ・こども図書室が出来たときの見学の話題が出たが、やはり愛着をもって貰いたいという思いがあったので、オープンの時に天井飾りを子供たちに作ってもらった。現在も同じように子供たちに作ってもらうプログラムを行っている。
- ・今の図書館でも、地域のことを学ぶ場の一つとして、小学生に図書館の見学に来てもらっている。本来は申込書の記入が必要だが、見学の時には、先生からの申請で、図書館カードを作って配ったりもしている。
- ・新しい図書館を整備するときも、何か関わったとか、一緒に作ったということがあると、その後に繋がるので、ぜひ何かやっていきたいなと思う。

(中井孝幸 委員)

- ・図書館ハンドブックという本があり、その中では学級訪問対応スペースというものも書かれている。中央館を作る時は、普段使っている人たちの支障がない所に、40人位を集められるスペースを設けることとなっているので、当然、整備していただきたい。

(3) 想定される機能及び費用について

- ・事務局より 参考資料1 に基づき、想定される機能及び費用について説明
- ・正式な事務局(案)ではなく、仮に、ワークショップなどでの意見を全て積み上げた場合には、これだけの機能及び費用が想定されるというディスカッションペーパーに近いことを補足した

- ・資料については、傍聴者への配布や常滑市ホームページへの掲載は行わない

(山田朝夫 委員長)

- ・事務局の説明に少し補足すると、この市庁舎を建てたときに、約1万㎡で約50億円だったと記憶している。今回、建設費用を1㎡当たり100万円で試算しているのので、ほぼ倍となっており、当時からかなり建設費が上がっている。さらにハードだけでなく、運営費もかかる。

(豊田雄二郎 委員)

- ・ここ数年で工事単価というものが上がっているのので、あまりこの数字を重く見てはいけないと思うが、資料の中で、AとB、新規整備分と現在の費用を足しているということは、公民館図書館を残す前提で試算しているということか。

(事務局)

- ・お見込みのとおり。

(豊田雄二郎 委員)

- ・資料の数字だけが独り歩きすると危険だと思うので、事務局としてどのような前提で、これらを試算したか確認しておきたい。

(事務局)

- ・本来であれば、これまでのワークショップや基本構想策定委員会の内容を踏まえて、現実的にこれなら実現可能だというものを事務局(案)として提示するのが正しいと思うが、今回の資料の数字は、皆さんの希望を、新しく図書館を整備するタイミングで一気にやろうとすると、これ位になるというもので、ただ単純に積み上げたものである。

(豊田雄二郎 委員)

- ・タイトルが「想定される機能及び費用」となっているのので、どこまでこの資料の内容をアナウンスするかは分からないが、今の説明内容をきちんと補足して分かるようにしておくべきだと思う。

(山際史子 委員)

- ・2点確認したい。1点目は愛知県みよし市の例は指定管理ではなく業務委託だが、問題ないか。2点目は、資料費については、総額で2500万円となると解釈してよいのか。

(事務局)

- ・資料の中で、指定管理の表の中にまとめて記載してしまい申し訳ない。数値としては、静岡県御殿場市の例と同じ業務内容の部分の金額を拾っているので問題はない。図書費についてはお見込みのとおり。

資料の充実のために、増額している。

(中井孝幸 委員)

- ・駐車場の台数の検討で、自分の論文を使っていたら、恐縮だ。来館者数の数値が出ているので、座席数についても触れておくのが良いと思う。計画の時は、来館者や蔵書冊数も必要な数値ではあるが、座席数というのも非常に重要なものである。
- ・ピーク時に館内に184人がいる計算なので、そのうちの65%が座っていると考えると、乗じて約120人。どれだけの座席を用意するかを考えるにあたっては、座席占有率というものがあって、これがピーク時でも50%を見ておくと良いので、割り戻すと、240席になる計算である。
- ・館内にある小さなスツールや、ベンチタイプであれば60cm毎に1席と考えても良いので、それらも全て含めて、240席あれば、来館者が色々な過ごし方ができると思う。
- ・1点質問だが、「居心地の良い居場所(+α)」という項目で300㎡確保しているが、何か特別な考えがあって含めているのか。

(事務局)

- ・こちらは一つの例だが、豊橋のまちなか図書館のサイレントコーナーの写真。閲覧席にしては、少し贅沢というか、余裕のある席だが、このような居心地の良い席も整備してはどうかという思いと、その他にも色々な場所を設けられるよう、かなり余裕をもった面積を計上している。

(中井孝幸 委員)

- ・ちょうど豊橋のまちなか図書館の話題が出たので紹介するが、メーカースペースという3Dプリンタやレーザーカッターが置かれた場所がある。全国の色々な図書館も含めて、もの作りのスペースを作っているが、ほとんどの図書館で電源が切られて使われていない。どうやって使っていいかわからないのが原因だと考える。
- ・そんな中で、千葉県の浦安市の図書館では、専任の司書が2人ついていて、メーカースペースが上手に機能していた。
- ・300㎡あれば、そういったプラスアルファの施設を作りたいなと思った時にも十分対応できると思う。
- ・北欧のフィンランドの図書館に行ったが、そこでは、みんなが置いてあるミシンを使って作っていた。布地は自分で持ってくるが、無料で使えるので、みんなが自由に使っている。

(山田朝夫 委員長)

- ・この300㎡を付加的な機能に使ってしまっても問題ないのか。

(事務局)

- ・今回の資料では、上下2段の表に分けて書いてある。先ほど中井委員にご教授いただいた240席という閲覧スペースは、上段の閲覧ス

ペースの面積があれば、最低限は確保できると考えている。

- ・下段にあるのは付加的なものなので、どこかの席を良くしたり、少しゆったり作ったり、その他プラスアルファな内容で使えたらなというものである。

(山際史子 委員)

- ・この後にする議論だったかもしれないが、ここから何を考えていくことになるのか。

(山田朝夫 委員長)

- ・自分もこの資料を見て、理想としてはこの内容だと思うが、今後、具体的に基本計画を作って、予算化していくことになると、かなりハードルが高いと感じている。
- ・もしこれから議論していただけるのであればだが、例えば、もう少し我慢できるのではないか、この機能はあとから追加しても良いのではないか、あるいは優先順位のようなものをご議論いただければありがたいと思うのだがどうか。あるいは、きちんとした図書館を作るには、どうしても全て必要だという意見もあると思うが。

(山際史子 委員)

- ・これだけの図書館を作るとなるとしっかり考えていく必要があるので、期間的なものもあると思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・最初に市民アンケートを取った時には、「なるべく早く欲しい」という意見が非常に多かったので、それでは、単独で図書館だけ整備することを考えた方が良くと考えて、基本構想策定委員会を立ち上げ、お忙しい中、集まっていた。
- ・しかし、いざワークショップを開いてみたら、みなさん、やはりそれなりの図書館を整備して欲しいという声が多くあった。第5回の議場での発表会の時に、自分の方から「どれくらいなら待てるか」とご質問させていただいたところ、10年～15年と言われたメンバーの方もいた。
- ・会場の雰囲気も、そのような意見だなと思っていたが、開催後に、当日発言ができなかったメンバーの方や、出席できなかったメンバーの方から、「10年も待てない」というご意見いただいているのが現状である。
- ・期限や予算が決まらないう議論ができないという声もあると思うが、ここは優先だなというヒントをお聞かせいただければ、次の会議までに、検討して参りたいと思う。

(豊田雄二郎 委員)

- ・ただ一方で、現実的な話しとして、3840㎡必要かという話をしていくには、それだけのスペースを取れる場所が果たしてあるのかと

いうことも含めて提示していただかないと、ここまでだよ、こんなものがあるといいよねといった議論はできないと思う。

(事務局)

- ・具体的な面積を提示させていただいたのは、今後、立地を考えるにあたって必要なためであり、先ほどもご説明させていただいたとおり、最大限、ご意見を積み上げた結果この面積になるというもの。
- ・時間的な制約などもある中で、機能を検討した結果、場所が見えてくることもあるので、提示させていただいた中から、優先順位を考えていただけないかという趣旨である。

(豊田雄二郎 委員)

- ・逆だと思う。規模を決めて、立地を探してというのが、それほどたくさん候補の場所があるのか。

(事務局)

- ・前回は申し上げたとおり、具体的な候補地があるわけではない。用地を購入するという選択肢もあるかもしれないが、ある程度の一定規模の土地が必要になってくる。

(豊田雄二郎 委員)

- ・3, 840㎡が建てられる土地を新たに購入しようというのは現実的なのか。駐車場のスペースも考えると、かなりの広さがは必要になってくると思うが。

(事務局)

- ・どこに立地するのかという大きな問題があるが、市街地の中で、これだけの面積を新たに購入するというのは、なかなか難しい。

(豊田雄二郎 委員)

- ・この資料の数字をもって、何を優先するかと言われて、みなさん答えられるだろうか。そもそもこのメンバーには、ここから何かをカットしなければとまらないというプレッシャーがない。たとえば、「具体的な候補地として、これだけの面積しか用意できません。なので何を優先するべきでしょうか」と言われたら、答えられるかもしれないが。

(山際史子 委員)

- ・これだけの図書館を作るとなると本当に期間がかかると思う。一方で、図書館を使いたい人たちがずっと使えないまま過ぎなければいけないのが、ずっと気になっている。
- ・例えば、まずは、大人の本が読める場所をどこかに作っておいて、後からもう一度大きな図書館を整備するという事は考えられないのか。

(豊田雄二郎 委員)

- ・一つの選択肢としてはあると思う。ただ今、そういう方向に集約する

のはちょっと違うと思う。色々な議論を尽くした中で、最終的に色々な議論を尽くした中で、最終的にやはり難しいとなった時にはじめて出るものだと思う。

- ・大人の本を読むなら、青海本館があるのに、なぜ暫定的なものを作らないといけないのか、個人的な意見ではあるが、そう思う。

(山際史子 委員)

- ・常滑地区、鬼崎地区の大人が本を読む場所がないというのが、スタートであり、そこが気になっている。具体的なアイディアがあるわけではないが、まず常滑地区、鬼崎地区の方が、大人も子供も本を読める場所を作っておいて、その後、仕切り直して、本腰を入れて検討するというのも、一つのアイディアとしてあると思う。

(豊田雄二郎 委員)

- ・一つのアイディアとしてはあり得ると思うが、その結論は、まだ、まとまらないと思う。

(中井孝幸 委員)

- ・今回、3,840㎡という数字が仮に出されたので、減額も含めて、3,500~3,800㎡位で、図書館を計画した場合を想定して、立地を考えてみてはどうか。
- ・いくつか候補にできる敷地がある中で、平面駐車場で80台分の面積をまず確保して、残りの面積の中で、敷地によって、2階建てになるのか3階建てになるのか、あるいは、この敷地だとアクセスが良い、悪いなどを考える。
- ・この委員会で決定するわけではないが、ここだったら計画できるという場所をいくつか検討してはどうだろうか。
- ・もちろん、今、基本構想の段階でそこまでやるかという議論もあるかとは思いますが、この委員会ではかなり細かいところまで議論していて、基本計画にほぼ近い。検討して示されても良いのではないか。
- ・3,800㎡の図書館だと、基本設計で1年、実施設計で1年、建設で2年はかかると思う、今年度、基本構想がまとまれば、そのまま基本設計に移行することが可能だと思うので、4年くらいで整備することができる。
- ・開館を伸ばすほど、建設コストは上がっていく。一度上がったものは下がらないので、できるだけ早く動いた方が良くと思う。場合によっては、PFI方式やPPP(官民連携)方式を検討する必要があるかもしれないが、従来方式であれば、4年で整備できる。
- ・面積を減らすという議論が必要なのであれば、議論すれば良いと思う。3,500㎡位までは下げられると思う。

(豊田雄二郎 委員)

- ・今日の委員会の中で、具体的に議論しなくてはいけないのは、規模だ

と思うが、今、この委員会のメンバーの中で、規模を少なくしようという意見は出ていない。具体的な検討の中で、2,000㎡の土地しか用意できないとなれば、その時に、規模を少なくしなければ、という話が進んでいくのだと思う。

- ・できるだけ事業費を抑えた方が良いとは思いますが、市の財政状況を知っているわけではないので、現実的な話の中で議論するのなら意味があるが、今この段階で、減らす議論をすることはしない。

(久田博司 委員)

- ・ワークショップで説明を受けた内容では、常滑市は借入が非常に多くて、市民一人当たりの借金が42～43万円と説明を受けた記憶がある。そこに今回の図書館整備で例えば50億円かかるとなると、市民一人当たりの借金が、さらに7～8万円位増えるイメージがある。
- ・当時は、もっと色々な補助金が活用できると思っており、半分くらい補助金で賄えるなら、3,500㎡～4,000㎡位のいい図書館が作れるなど思っていた。
- ・実際のところ、常滑市が出せる大まかな予算であったりとか、補助金を使えるかであったりとか、結局のところは、予算と土地の問題なのだと思う。その中でも一番ネックになるのは、土地が本当に確保できるかということなので、それ以外はお金の問題だと思う。常滑市としてどこまで煮詰まっているか、お考えがあれば教えていただきたい。

(山田朝夫 委員長)

- ・どこまで予算が出せるのかとなると、これはいまの時点ではお答えするのは難しい。国や県の補助金があるかということと常滑市で利用できるようなものは基本的にない。豊橋市の図書館が使ったような社会資本整備総合交付金は、常滑市では難しい。

(豊田雄二郎 委員)

- ・前回の議論に戻ってしまうかもしれないが、公共施設等適正管理推進事業債の活用の可能性はないのか。

(山田朝夫 委員長)

- ・豊田委員が言われる公共施設等適正管理推進事業債というのは、いくつかの公共施設を集約してさらに面積を減らすという条件で、借金の返済時に地方交付税交付金という、いわゆる国からお金を入れるという仕組み。建設費にかかる借金の総額の90%に対して、その50%を交付税措置するというものなので、約45%位となる計算である。
- ・一方で、どんな施設を集約するのかや、どうやって面積を減らすのかという点については、調整がついていない。調整がつくかも現時点

では分からない。活用できないとなると全て常滑市の持ち出しとなり、仮に45億円を45年で返すとなった場合でも、利息を考えなくても、毎年1億円、そこに運営費としてさらに2億7千万円がかかる。事務局から数字をもらって、これは大変だという印象。

(井村美里 委員)

- ・先ほど山際委員から出た期間の話になるが、自分のワークショップの最後の印象が、少し待っても良いというものだったので、本格的な施設を整備することもあるのかなと思った。そうでなければ、できるだけ早期ということであれば、テナントに入るパターンも一つの案として良いと思っていた。
- ・いつまでに整備するというのは、これからどうしていくべきか判断をする中で大きな条件となると思っている。
- ・また、常滑市が縦に長いので、どこに中央館を作ったとしても、誰かは不便になってしまうという話題の中で、青海と南陵をどうするか、公共交通をどうするかという話があったと思う。
- ・仮に、どこかに本館を整備するのであれば、身近なところには、本箱が置いてある程度の小さな図書館が点々とあって、そこに移動図書館が1週間に1回は来る、そうすれば身近に図書館があり、行こうと思った時は、中央館に行けば良いのかなと思っている。
- ・今の課題として、どこから何を削減していくのかという話をするのであれば、図書館全体のあり方を考える中で、青海と南陵をどうしていくのか、縮小していくなら、ここが削れるという、運営費を削っていく話ならば、できるのかもしれない。

(山田朝夫 委員長)

- ・市民アンケートを実施した際、分散移転により充実したこともあったか、青海地区と南陵地区の方からは、現状について不満の声は出なかった。一方で、図書館がないので早く作って欲しいと言われる方は、常滑地区と鬼崎地区の方で、やはり、両地区に図書館がないことからの意見である。
- ・ところが、ワークショップを開催したら、青海地区や南陵地区の高齢な方の中でも、「1カ所にまとめてもよい」、「廃止でもよい」という意見を持たれている方がおり、驚いている。
- ・ただ、こういった話を議会ですると、いつも中央ばかりで、北と南は置いていかれているのではないかという意見をお持ちの議員もおられるので、青海と南陵を廃止するという議論にはならないのではないかと。少なくとも、旧本館が廃止される前の公民館図書室規模のものを、青海と南陵に残した方がよいのではないかとというのが、自分の感覚である。

(井村美里 委員)

- ・今、立派な中央館ができていくというイメージで話が進んでいる中ではあるが、そうではなく、図書館全体のあり方がどうあるべきかについて、この委員会のメンバーのみなさんにご意見を伺いたい。

(豊田雄二郎 委員)

- ・もちろん、歩いて行けるとところに図書館があるというのが理想的な環境ではあると思う。しかし、公共交通機関が常滑市には足りていないことを踏まえると、また予算の話になるかもしれないが、図書館を軸として、グリーンのような交通手段を充実させるとか、5年もすれば自動運転もかなり実用化するだろうから、そういったものをセットで考えれば、必ずしも青海地区や南陵地区に立派なものがなくても、山田委員長が発言された、旧本館閉館前の公民館図書室くらいの機能が残されれば、許されるのではないか。

(山田朝夫 委員長)

- ・公共交通はかなりの費用が必要となる。今のグリーンで1路線が年間4千万円程度。グリーンに乗れる環境にある人はよいが、乗れない人がたくさんいるのに不公平ではないかという議論になると思う。

(豊田雄二郎 委員)

- ・バス停があるかどうかということか。地理的なものであれば、路線を充実すれば良い。

(山田朝夫 委員長)

- ・充実するには、公共バスであれば、かなりのバス網を作らなくてはいけなくなるが、乗車率が高いかということそうではない。現在は、それを解決するために、北部でのデマンドバスやデマンドタクシーについて議論しているが、それでも年間4～5千万円の費用が必要。

(豊田雄二郎 委員)

- ・こういった議論は、どこの地域でも課題になることで、1時間に1本のバスには誰も乗らないのだから、少し賭けのような感じにはなってしまうが、逆に増やすことによって、そういう考え方もできると思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・そういう考えもあるが、絶対的に常滑市に住んでいる人口が少ないので難しい。無料だということもあり、市役所と駅を結ぶ路線は、たくさんの方の学生の方に利用してもらっているが、その他の路線は実は利用がほとんどない。

(豊田雄二郎 委員)

- ・自分が言いたいのは、モビリティの施策とセットということ。これから量産化されていけば、4千万円が仮に4百万円になるかもしれない。そうなれば話が全然違ってくる。技術革新が進んでいる中で、5年先だったら、現実的な話となってもおかしくない。

(山田朝夫 委員長)

- ・どこか一か所に図書館をまとめることができるのであれば、経費がかなり抑えられる。いくつも図書館を持っているというのは委託経費がかなり高くなる。

(中井孝幸 委員)

- ・個人的な考えにはなるが、中央館がきちんとあった上で、日常生活圏である中学校区に一つ、図書館はあってほしいと思う。
- ・図書館というのは、本が置いてあるだけで良いのではなく、変わっていかないと魅力が上がっていかない。前回ご紹介したかもしれないが、瀬戸市では、中学校の学校図書館を土日の10時から16時までではあるが、市から司書を派遣して、地域の図書館として開放している。短いかもしれないが、学校図書館にない本でも、1週間待てば、中央館から本が届く。もちろん、地域の図書館を利用している人たちも中央館を使っているのだが、使わない人たちの最初の動機づけという意味で、身近な所に拠点の一つは必要だと思う。常滑市の図書館のあり方として、集約して廃止というだけではよくない。

(山田朝夫 委員長)

- ・前回、3 km圏内にとご説明があったが、地域に図書館がある場合でも、中央館には3,500㎡という面積が必要か。

(中井孝幸 委員)

- ・図書館の機能として、2,500㎡を下回ることはない。6万人都市であれば、もっと欲しいが、落としどころとして3,000㎡というのが現実的ではないか。

(山田朝夫 委員長)

- ・面積を減らす議論になると付加的な部分が一つ検討事項となるが、この資料に書かれている中ではどうか。

(中井孝幸 委員)

- ・ホールは不要、カフェも、全国の図書館で、結局、利用者がいないので、最後は自動販売機になってしまっている。
- ・学習室は地域による。学習室を別にとらなければ、学生が机と椅子のある児童エリアを占拠する。
- ・多目的室のような、無料で借りられる場所は必要だと思っている。

(山田朝夫 委員長)

- ・以前、土方副委員長は、学習スペースは、別の場所にあっても良いのではといていたが、どういうお考えだったか。

(土方宗広 副委員長)

- ・図書館市民ワークショップが終わったあとに、あるメンバーの方と話をした。その方は、常滑地区に学習スペースがないと話されていたが、図書館の中にあっても良いが、自分の地域にあれば、それでこと

足りると言っていた。

- ・図書館の中でなくても、家から出て、身近な場所で勉強できるスペースを確保して欲しいと話していたのが印象的だったので、自分としても、図書館の中であっても、外であっても良いという意見。

(豊田雄二郎 委員)

- ・図書館の機能を整備すると考えたときに、資料では、カフェを市で準備するように書いてあるが、民間に用意してもらおうという考え方もある。例えば、PFI方式とした場合に、カフェ部分は民設民営とする方法もあると思うので、本来の図書館機能あるいは最低限必要なものだけを整備するという考え方もあると思う。

(中井孝幸 委員)

- ・カフェに限っていうと、なかなか売り上げが上がらない。入ってくる人が必要なのだが、上手くいかないことが多い。

(山田朝夫 委員長)

- ・この市庁舎もレストランが入らなくて、今は無人売店にしている。病院の職員食堂も撤退してしまった。

(中井孝幸 委員)

- ・エントランスのスペースも必要ではないかと思った。例えば、複合施設でも、図書館は18時に閉まるが、施設全体は21時まで開いていることが多い。そうするとエントランスに机と椅子さえあれば、学生はそこで勉強している。
- ・学習室を21時まで開放しても、使っているのは学生だけになる。しかし、同じ人がいつも利用しているだけで、実は人数としては多くない。開館していると空調や人件費など運営費がかかるので、開館時間をコントロールして、エントランスなど、人を一か所に集めれば、削減につながると思う。

(久田博司 委員)

- ・基本方針の中で、子供の読書や地域資料の収集に力を入れると書かれているが、30万冊の資料を整備するとなると、児童書や地域資料をどれくらいの割合で整備するのか、そんな目標があっても良いと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・児童書を増やすことを方針なりに書いた方が良いということか。

(久田博司 委員)

- ・基本方針の中で、子供の読書を3番目に位置付けているのであれば目標としてあっても良いと思った。

(豊田雄二郎 委員)

- ・今は、単純に5冊×6万人で30万冊なので、目標となる数値があ

っても良いかもしれない。

(山田朝夫 委員長)

- ・次の段階では、当然、考えるべき事項であると思うので、事務局は、今後の基本計画の際に、よく検討するように。

(中井孝幸 委員)

- ・もっと少ない図書館もあると思うが、3分の1位を児童書が占めるのが一般的だと思う。

3 その他

- ・なし

4 閉会

- ・次回の委員会は令和8年1月16日（金）午後2時00分から開催
- ・会場は、常滑市役所1階 会議室Iの予定